

令和2年度学校関係者評価

中央調理製菓専門学校静岡校 上級調理経営学科・調理師科

令和2年度学校関係者評価委員

■保護者

泉地 貴幸 様 上級調理経営学科・泉地 凌吾君 保護者

■企業関係者

増井 徹 様 (株)中島屋ホテルズ 取締役 経営管理本部
副本部長 兼 総務部長

■他校関係者

高橋 渉 様 中央歯科衛生士調理製菓専門学校
調理製菓総合学科 学科長

1. 教育理念・目標

【自己評価結果】		平均
1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。	A
2	教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。	A
3	教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。	A
4	組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。	A
5	鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。	A
【現状の問題点】 年々教育目標が明確に日々の教育に活かされるようになってきている。今後は修学成果の可視化に向けた具体的な取り組みが望まれる		
【改善のための方策】 カリキュラムマップを作成し取り組みの効果を可視化して業務ごとに確認することで精度を上げていきたい。		
【関係者評価】 企業では四半期ごとにGMより理念や目標の話を頂いており、毎日のブリーフィング時に理念や行動指針を唱和し確認しています。本校でも今後の取り組みとしてカリキュラムマップを作成し可視化する事で職員が同じ方向を向き目的に向かっての精度を上げていきたい。理念、目標を小冊子にして社員に持たせている。		

2. 学校運営

【自己評価結果】		平均
5	目標を達成するための事業計画が策定されているか	A
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	A
8	就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。	A
9	組織内の連携は適切に図られているか。	A
10	上司の指示は適切にされているか	A
11	上司は提案を受け入れてくれているか	A
12	職場内での教職員教育・指導は充分なされているか。	B
13	BSCは適切に活用されているか。	B
【現状の問題点】 学科を越えた情報共有や仕様の統一、各種の研修を計画したい		
【改善のための方策】 教員の研修を計画的に実施し教員としての力を身に付けて科全体の力の向上につなげる。		
【関係者評価】 今年度はコロナ禍の為、教職員の希望での研修は出来ませんでした。キャリアに見合った業務、次年を見据えての業務配分を行う。また相談できる環境づくりが大事。SNS使用による業務の効率化は参考にしたい。		

3. 教育活動		
【自己評価結果】		平均
14	授業評価の実施・評価体制はあるか	A
15	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
16	資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。	A
17	資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。	A
18	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A
19	目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。	A
20	職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか	A
20	シラバスは十分に検討し作成されていたか。	A
21	シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。	A
22	教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか	A
23	十分に余裕を持って教育行事の準備が出来ているか。	B
24	学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。	A
【現状の問題点】		
概ね高い達成率を実現している。学科のコマシラバスと確認テストなどのカリキュラムマップの作成への取り組みを始めたい		
【改善のための方策】		
業務の確認を教員間のSNSなどにスムーズに行い、準備が遅れないようにする。行事予定を早期に打ち出すことで準備の時間が不十分にならないようにする。		
【関係者評価】		
コロナ禍で仕方のない部分がありますが、スピーディーな伝達力、行事予定が早期に進め不具合が無いようにする。毎日の5分間ミーティングや職員間での連絡ツールを使用します。		

4. 学修成果		
【自己評価結果】		平均
26	就職率の向上が図られているか	A
27	退学率の低減が図られているか	B
【現状の問題点】		
退学防止のため、退学の原因とされる側の教育、即ち実習での発言や攻撃的な態度、失敗した際の対応などを事例研究としてアクティブラーニングで深めていきたい		
【改善のための方策】		
退学率の低減の為、1年次(調理師科を含む)に力を入れる為の人員を配置し、関われる環境を作ります。		
【関係者評価】		
本人の考え方の不一致もあり、企業では辞める子は沢山いますが、教え方や指導方法も以前と比べ改善し良い関係と環境を作る取り組みをしています。企業では年齢の近い上司を指導担当にし、コミュニケーションを取りながら指導する方針。		

5. 学生生活支援		
【自己評価結果】		平均
28	学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。	A
28	各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。	A
29	防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。	A
30	進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。	A
31	中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。	A
【現状の問題点】		
継続して細部まで配慮した支援体制を向上させたい		
【改善のための方策】		
毎日の小会議で情報共有を継続する。学生に合わせた指導も確認する。支援制度があるが周知されていない。		
【関係者評価】		
特に1年次の退学対策として職員の配置にウェイトを置く。また入学前講座でゆっくりのスタートをする事で詰込み過ぎず徐々に学校生活を慣らしていく。企業でも上司の声掛けを行い信頼関係の構築に努めています。不安解消を目指し、入学後すぐに面談をスタート。支援制度の説明を昨年よりも強化する。		

6. 教育環境		平均
【自己評価結果】		平均
33	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A
【現状の問題点】 概ね教育環境は整っていると考えられる		
【改善のための方策】 設備、施設の使用方法を丁寧に説明し破損、汚損を防ぐ指導をする。		
【関係者評価】 使用方法を継続して伝えることで破損、汚損を防ぎます。		

7. 学生の受け入れ募集		平均
【自己評価結果】		平均
34	学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法、時期は適切か。	A
34	入学案内（パンフレット）には志願者が必要とする情報が掲載されているか。	A
35	体験入学の時期、回数、内容は適切か。	A
36	入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。	A
【現状の問題点】 学生受け入れについてはトータルで大凡しっかりと機能していると考えられる		
【改善のための方策】 入学生の目線を考慮した内容、時期を検討し、定員確保を第一に考えます。		
【関係者評価】 入学者目線で物事を考える。年齢に近い職員の意見を反映する。広報会議で広報活動の具体的な時期やメニュー検討が行われています。		

8. 財務		平均
【自己評価結果】		平均
38	・中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか	A
39	・学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか	A
【現状の問題点】 予算執行意識が高まっており、無駄を配慮した学納金の使い方になっていると思われる。		
【改善のための方策】 科全体で予算意識を高めるための予算執行の定期的な報告を行います。		
【関係者評価】 月締め伝票等を学科長が確認し、科内で共有するよう周知する。行事に関わる予算執行、消耗品のコントロール。		

9. 法令等の遵守		
【自己評価結果】		平均
40	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
40	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A
41	個人情報保護法を遵守しているか。	A
42	各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。	A
【現状の問題点】		
SNSが学生教育にも欠かすことのできないツールになっていることから、ネットモラルについての教育は強化させたい。また、ハラスメントについての啓蒙は今後も続けていきたい。		
【改善のための方策】		
新年度早い段階でのSNS関連のモラルについて説明を継続する。		
【関係者評価】		
ネット上の繋がりが問題点(ライングループ等ネットでの繋がりに)なるおそれを説明する。具体的な事例を示し、対応を考える必要がある。		